



Junior Drive
Shiraiishi Racing School

REPORT

報告書

9月 5日 (月)	岡国フォーミュラトレーニング
9月13日 (火)	岡国フォーミュラトレーニング
9月14日 (水)	岡国フォーミュラトレーニング
9月26日 (月)	舞洲フォーミュラトレーニング

9²⁰²² SEP





32°C

Track
OKAYAMA

Driver
Yuma Sugita

★トレーニングプログラム

- 10:40～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 10:50～ フォーミュラ走行枠① 30分 ドライバー：Yuma Sugita
- 11:30～ ロガー & 車載映像 解析
- 13:10～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 13:20～ フォーミュラ走行枠② 30分 ドライバー：Yuma Sugita
- 14:00～ ロガー & 車載映像 解析
- 15:00～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 15:10～ フォーミュラ走行枠③ 30分 ドライバー：Yuma Sugita
- 15:50～ ロガー & 車載映像 解析
- 16:50 解散

- School Car -

Super-FJ



全長/全幅 3,935mm/1,700mm
車重：420kg
エンジン：1500cc/130ps/7000rpm
ミッション：ドグミッションH/バスター5速
最高速：220km/h

身体の成長によるポジション変更。

先月、スクール内で首位タイムを記録した2期生の杉田がトレーニングに参加しました。空は晴れ渡り雨の心配はありません。

この日は30分×3セッションが行われ、前回のトレーニングからの課題を克服するための杉田の1日がスタートしました。

1枠目を走り終え、杉田から「ギヤシフトの操作がしづらい。」とコメントを受け、シフトノブの位置を変更しました。原因は身長が伸び、腕の長さが変わったことにありました。これらの変更を加え、2枠目が始まりました。まだまだラップによってバラつきはあるものの、今回やりたかったことが成功する場面もあり、その成長ぶりをみせました。

この日最後のセッションがスタート。朝から使用してきた摩耗したタイヤでどこまでタイムを上げられるかが問われます。杉田のこれまでのベストタイムは前回のトレーニングでマークした2分42秒2。セッション半분을過ぎたところでこれに迫るタイムを刻んでいきます。そして遂に自己ベストを上回る42秒0を記録し、0.2秒のタイムアップを果たしこの日のトレーニングを終えました。





33℃

Track
OKAYAMA

Driver
Yuzuki Miura/Yusuke Okano

★トレーニングプログラム

- 10:00～ 乗り込み準備&ミラー調整
- 10:10～ フォーミュラ走行枠① 60分 ドライバー：Yuzuki Miura→Yusuke Okano
- 11:20～ ロガー&車載映像 解析
- 12:20～ 乗り込み準備&ミラー調整
- 12:30～ フォーミュラ走行枠② 60分 ドライバー：Yusuke Okano→Yuzuki Miura
- 13:40～ ロガー&車載映像 解析
- 16:00～ 乗り込み準備&ミラー調整
- 16:10～ フォーミュラ走行枠③ 60分 ドライバー：Yuzuki Miura→Yusuke Okano
- 17:20～ ロガー&車載映像 解析
- 18:00～ 解散

- School Car -

Super-FJ



全長/全幅 3,935mm/1,700mm
車重：420kg
エンジン：1500cc/130ps/7000rpm
ミッション：ドグミッションH/バターン5速
最高速：220km/h

それぞれの課題克服に専念

この日は1期生の三浦と2期生の岡野がトレーニングに参加しました。

天候にも恵まれ、完全ドライコンディションの中、1セッション目がスタートしました。まず最初にコースインしたのは三浦。前回の課題であった“ラップタイムの一貫性”の改善に全力を尽くします。毎ラップ安定した走りを心掛け、まだ一貫性には欠けるものの前回に比べると、はるかにラップタイムが安定して出せるようになりました。

続いて岡野がドライブ。岡野の課題は純粋にスピードを高めることにありました。三浦と比較しても、ほぼすべてのコーナーでスピードが足りず、まずは自らの限界点を高めることが重要でした。少しずつ慎重に自らのペースでコーナーリングスピードを高めていきました。

午後からのセッションがスタート。タイヤをコンディションの良いものに交換しました。まずは三浦がドライブ。午前と同じくラップタイムの一貫性に集中すると共に一発のベストタイム向上にも専念しました。安定したラップタイムをしっかりと刻み、自らの課題はクリアできたものの、杉田のベストタイムに0.1秒足りず、本人は悔しい様子でした。続いて岡野がコースへ出ていきました。まだまだスピードには乗れず、自信を持って攻めている様子ではありませんでした。岡野は翌日もトレーニングを控えているため、課題克服は明日へ持ち越しとなりました。





33℃

Track
OKAYAMA

Driver
Yusuke Okano

★トレーニングプログラム

- 8:50～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 9:00～ フォーミュラ走行枠① 30分 ドライバー：Yusuke Okano
- 9:40～ ロガー & 車載映像 解析
- 10:50～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 11:00～ フォーミュラ走行枠② 30分 ドライバー：Yusuke Okano
- 11:40～ ロガー & 車載映像 解析
- 12:50～ 乗り込み準備 & ミラー調整
- 13:00～ フォーミュラ走行枠③ 30分 ドライバー：Yusuke Okano
- 13:40～ ロガー & 車載映像 解析
- 15:00～ 解散

- School Car -

Super-FJ



全長/全幅 3,935mm/1,700mm
車重：420kg
エンジン：1500cc/130ps/7000rpm
ミッション：ドグミッションHパターン5速
最高速：220km/h

出遅れた分を取り返す

昨日に続き、岡野の2日連続のトレーニングがスタートしました。岡野の課題は“スピードを高めラップタイムを向上させること”。非常にシンプルですが、恐怖心に打ち勝つためのメンタルが必要です。

前日の走行データを頭に入れ、イメージを描いていきます。朝のセッションがスタートしました。ピットではリアルタイムでオンボード映像が確認できるため、岡野のスピードの変化にすぐに気づくことができました。その見た目通りにタイムも大幅に向上し、昨日までの自己ベストタイムを大きく削ることに成功しました。

自信を持てるようになった岡野は2セッション目もスピードを高めていきました。タイヤの状況を考えると、三浦や杉田に匹敵するほどの走りにまで成長しました。調子が上がってきた最後のセッションでは、残念ながらマシントラブルにより、セッション中盤でストップしてしまいました。しかし、この日の岡野が得た感覚やデータは非常に大きく、彼の自信を取り戻せるきっかけになったと思います。

次回の走り出しからこの日の走りができれば、他のスクール生も侮れない存在になり得ます。今後の岡野の成長が非常に楽しみです。





31℃

Track
MAISHIMA

Driver
Kamui Hashiramoto/Haein Hwang/Tomo Onohara

★トレーニングプログラム

- 9:45～ 集合（広場現地にて）
- 10:00～ 脱出訓練（5秒以内でマシンから降りる練習）
- 10:15～ ドグミッション慣熟走行① 10分×3名 ロングストレート 3速ギヤまで
- 11:00～ ドグミッション慣熟走行② 10分×3名 ロングストレート 4速ギヤまで
- 12:00～ 昼休憩
- 13:00～ ドグミッション慣熟走行③ 10分×3名 ロングストレート 5速ギヤまで
- 13:45～ ドグミッション慣熟走行④ 10分×3名 ロングストレート 5速ギヤまで
- 14:30～ Aコース練習走行① 10分×3名
- 15:15～ ロガーチェック
- 15:30～ Aコースタイム計測走行 5分×3名
- 16:00～ ロガーチェック
- 16:15～ コース清掃&車両ワックスかけ
- 17:00 解散

- School Car - **Super-FJ**



全長/全幅 3,935mm/1,700mm
車重: 420kg
エンジン: 1500cc/130ps/7000rpm
ミッション: ドグミッションHパターン5速
最高速: 220km/h

3期生初のフォーミュラトレーニング

前回の86トレーニングを経て、遂にフォーミュラマシンによるトレーニングへステップアップする3期生メンバー。ドライバーは柱本翔夢伊（11）、ファン・ヘイン（10）、小野原智（10）の3名で、これまでのスクール生で最も平均年齢が低いメンバーとなります。彼らもまた、シミュレーターで訓練を受けて来ており、小学生ではありますが基本的な操作や知識は備わっています。前週に初めてのシート合わせを終え、それぞれ自分のシートを持って初フォーミュラに備えました。

まずはじめに緊急時のための脱出訓練を行いました。レースではルール上、5秒以内にマシンから脱出しなければなりません。初めてのベルトとステアリングを外す動作に3名とも手を焼いていました。

そして、いよいよ夢にまで見た人生初めてのフォーミュラマシンをドライブする瞬間がやってきました。まずは発進～停車とドグミッションに慣れるための走行です。柱本とファンは発進が非常にスムーズでストールすることなくクラッチを丁寧に操作していました。小野原も最初は固いクラッチ操作に苦戦していましたが、後半にはコツを掴み発進がスムーズにできるようになりました。この日の1人60分ずつの走行で、発進は完璧にマスターし、シフト操作もまだミスはあるものの、1～2期生の最初と比較しても、3期生のレベルの高さを感じました。トレーニング終了後は、自分たちが使用したコースの清掃とマシンの清掃を行い、この日すべてのプログラムを終了しました。



Yuma - SUGITA (13) Best 1.42.089

先月首位タイムを記録した杉田。今月もしっかりタイムを残しスクール生の中でトップのタイムを記録しました。ドライバーとして人として、まだまだ改善できるポイントがあり、さらに速く強くなる可能性を秘めています。



Yuzuki - MIURA (15) Best 1.42.274

トップ杉田のタイムにあと一歩足りなかった三浦。それでも今月の自らの課題はクリアでき、前に進むことができました。来月こそトップタイムという結果を狙いに行ってほしいです。



Yusuke - OKANO (13) Best 1.43.414

今月最も成長を成し遂げたのは間違いなく岡野です。これまで前の2名に大きな差をつけられていましたが、2日間のトレーニングでその差を縮めました。この調子で来月も飛躍できるか注目です。



Haein - HWANG (10) Best 48.975

舞洲ジュニアシリーズに参戦し、柱本に次いでランキング2位につけているファン・ヘイン。普段は大人しい性格ですが、マシンに乗り込むと誰よりもアグレッシブな性格へと一変します。発進は完璧にマスターできたので、次回はギヤ操作をマスターしたいところです。



Kamui - HASHIRAMOTO (11) Best 51.962

舞洲ジュニアシリーズランキング首位の柱本。“勝つための執念”は人一倍持っているドライバーです。発進は一発でマスターし、その実力の高さを発揮しました。ギヤ操作さえクリアできれば、必ずタイムに繋げてくるはずですよ。



Tomo - ONOHARA (10) Best 56.158

1期生の小野原悠の弟である小野原智。兄の走りをずっと間近で見てきており、遂に自分がドライブする日がやってきました。このメンバーの中では最年少の小学4年生ですが、1年生からレースやシミュレーターを始めており経験は豊富です。このハイレベルの3期生メンバーの中で揉まれ、どこまでパフォーマンスを高められるか楽しみです。



【トレーニングを終えて】

遂に3期生のフォーミュラトレーニングがスタートしました。

平均年齢が10歳とこれまでで最も低く、全員が小学生で少し不安もありましたが、その悪い予想はすぐに裏切られました。

これまで1期生2期生が苦労していた難しい操作も、3期生は初日にそれを成し遂げました。

彼らにはまだまだ時間があり、レースデビューするまでにどこまで成長することができるのか、本当に末恐ろしいです。

1期生2期生も確実にレベルを高めて来ており、3期生が入ってきたことでどのような化学反応が起きるのか。

勝負の世界で戦うジュニアドライバーたちの今後の成長が非常に楽しみです。

Junior Drive講師 白石勇樹





Junior Drive
Shiraishi Racing School

SPORTS KART



舞洲スポーツアイランド



GARAGE38
Luce ed ombra



Artisan by Garage



Junior Drive
Shiraishi Racing School

